

別記様式

会議録（要点筆記）

会 議 名	第1回 市民とともにつくる非核・平和米原市民会議
開 催 日 時	令和3年11月26日（金） 18時00分～19時50分
開 催 場 所	米原市役所本庁舎 会議室3B
出席者および欠席者	出席者：渡邊暁彦委員、北原治委員、大長弥宗治委員、瀬戸川恒雄委員、吉田正子委員、木部弘美委員 欠席者：なし 事務局：平尾市長 くらし支援部 立木部長 政策推進課 田中主幹 総務課 筒井課長 社会福祉課 松居課長、北村課長補佐、香水主査、山表主任、堀澤主任
議 題	1 市内に点在する忠魂碑の現状および課題等に関することについて 2 戦没者および戦争犠牲者への哀悼や新たな顕彰のかたちに関する ことについて 3 市全体の平和の象徴として、非核・平和を祈念するモニュメント の建立に関することについて 4 今後の市民会議の進め方について
結 論	・座長に渡邊暁彦委員、副座長に北原治委員が選任された。 ・上記議題について事務局から現状を説明し、現状把握および問題の 共通認識を図った。
審 議 経 過	1 開会 2 市長挨拶 3 委嘱状交付 委員を代表して、大長委員に委嘱状を交付 4 自己紹介 5 会議の目的等について

座長	<p>事務局から次の事項を説明</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 設置目的 (2) 設置根拠 (3) 所掌事務 (4) 委員の定数 (5) 委員の構成 (6) 委員の任期 (7) スケジュール案 <p>6 座長および座長が指名する委員の選出 座長 渡邊暁彦委員、副座長 北原治委員を選出</p> <p>7 諮問 市長から渡邊座長に諮問書を手渡し 市長退席</p> <p>8 議事 議題「市内に点在する忠魂碑の現状および課題等に関することについて」を事務局から説明されたい。</p>
事務局	<p>(事務局から、「市内に点在する忠魂碑の現状および課題等に関することについて」を説明。)</p>
座長	<p>事務局説明のとおり、忠魂碑は立派なものが建っているが、遺族会の高齢化等により維持管理が厳しい状況である。そのまま残すのか、一つに集約するのか、解体するのか。いずれにしろ、今が判断の時期である。</p>
委員	<p>忠魂碑は戦時中に小学校に建てられ、当時の道德教育に使われていた。戦後に自治会が維持管理することになったが、時間が経過するとともに自治会が維持管理できなくなって、遺族会が維持管理することとなった。遺族会も高齢化で維持管理が難しい現状である。</p> <p>また、今後、平和教育を進めるに当たっては、忠魂碑を使うことはできないと思うが、このことについて、今後の議論で意見を伺いたい。</p>

座長	<p>忠魂碑をさわるためには、土地所有者の把握が必要と考える。資料に「調査中」とされているものがあるが、把握はできるのか。</p>
事務局	<p>市の保有地、民間の土地に建てられているものがあるが、調査は可能です。</p>
委員	<p>忠魂碑はそもそも誰が建てたのか。また、うちには先祖代々のお墓のほかに、軍人のお墓が2基あるが、資料の新聞記事を見ると在職軍人や戦友会がつくりその後解散し、遺族会が引き継いだとの記載がある。これは、戦後に軍人が建てたということか。</p>
委員	<p>軍人が建てたということにはなっているが、基本的には当時の行政が建てている。戦後、GHQの指令で政教分離により行政が管理できなくなった。戦前は行政と言っても軍人であり、軍人が管理していた。</p>
委員	<p>私の子、孫世代は戦争の実感がなくなってきており、近隣諸国が飛翔体を発射していることなどから「有事に備え、戦力を持った方がよい」などの議論も出てきており、恐ろしいと思う。</p> <p>平和学習に関わっておられる立場として、意見を伺いたい。</p>
委員	<p>各旧字、村といった行政単位で小学校などの一角に忠魂碑が建てられた。戦争に行って遺骨となって帰ってきた「忠魂」の御霊を合祀する施設であり、児童生徒に対して「あなたたちも英霊を見習って、国のために命を捧げなさい」という教育に使われていた。そういった歴史的事実があるので、忠魂碑を移設するにしても歴史性の担保が必要であり、私自身は抵抗を感じる。忠魂碑を全部なくして、50年後に「そういう歴史はなかった」となってしまうかもしれない。かといって、県による費用負担は、県民のコンセンサスを得ているとは言い難く、現状では難しいと思われる。そういうところでどう折り合いをつけるか、歴史性をどう担保するかが重要な問題ととらえている。</p>
座長	<p>本議題の核心に触れていただいたと思う。施設の宗教性、政教分離</p>

	<p>の原則との兼ね合いをどう考えるか。歴史的建造物ということで、忠魂碑それ自体がもつ意義もある。それを移設あるいは解体することについては、非常に複雑な問題が生じてくる。遺族会としてはどう考えているか。</p>
<p>委員</p>	<p>遺族会として維持管理することはもう限界である。誰かに引き継げるとよいが、維持管理できないのであれば解体も考えなければならない。私としては行政に引き継いでほしいが、それは無理だと考えている。例えば、湯谷神社の忠魂碑はお性根を抜いており、単なるモニュメントとなっている。志賀谷の東黒田忠魂碑は東黒田遺族会として、危険だからお性根を抜いて碑を降ろして、いずれは土地を地元に戻そうということにもなっているし、東黒田忠魂碑の脇にある戦死者名の碑について、仮に新しいモニュメントを作るにしても戦死者名を何らかの形で残したいと考えている。このほか、解散した伊吹地域の忠魂碑もお性根を抜いているが、木の剪定、伐採などが負担となっていることや、高台にある忠魂碑もあり、遺族会による維持管理は限界である。</p>
<p>座長</p>	<p>すでに遺族会でお性根を抜いた忠魂碑があることが認識できた。地震などで倒壊する恐れがあるものもあり、喫緊の課題としてとらえなければならない。</p>
<p>委員</p>	<p>私自身、小さいころ忠魂碑で遊んでいたが、私のところの忠魂碑は戦後に新しくなっており、非常に立派である。まだしっかりしている印象である。</p>
<p>座長</p>	<p>忠魂碑がそれぞれで状況が異なることを共通認識できたと思う。</p>
<p>座長</p>	<p>続いて「戦没者および戦争犠牲者への哀悼や新たな顕彰の形に関することについて」を事務局から説明されたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>(事務局から、「戦没者および戦争犠牲者への哀悼や新たな顕彰の形に関することについて」を説明。)</p>

座長	<p>コロナ前、コロナ後の式典について説明をいただいた。今後の式典のアイデアなど、委員の意見をいただきたい。</p>
委員	<p>県の平和祈念式典は、以前は遺族会の主催で、膳所公園で開催していたが、米原市が町時代に市、遺族会の役割分担を協議し、市は式典を主催することとなったため、県も4年ほど前から県主催となった。米原市が市主催としたことで、県内市町も市町が主催するということが大き流れとなっている。県の式典は、県議会から知事に対して「もっと県民を巻き込んだ式典とすべき」という意見が出ており、米原市も同じだが、一般市民を巻き込んだ式典をどう進めるかが課題となっている。</p>
座長	<p>一般市民をどう巻き込んでいくかということは、本議題の本質的な部分であると考え。ほかに意見はないか。</p>
委員	<p>小、中学校は、1年に1回は平和学習をやっている。私が関わっている山東小学校は毎年実施しているし、大東中学校はいろんな戦争経験者が話をしている。米原市の教育委員会などにこの現状を調査していただくなりして、今後の学校教育の中における平和学習の在り方についても検討していただければありがたいと思う。</p>
座長	<p>小、中学校の平和学習に関わって、教育委員会などはある程度各学校での取り組みについて把握されてると思うので、今後の会議の時に説明されたい。</p> <p>私から一点。式典の次第を見ていると、市民の方々を巻き込んでというのが難しいということであり、今後どういうふうに見直していくかということも検討課題になるかと思う。例えば昨今のグローバル化のなか、米原市にも外国籍の方がたくさんおられるわけで、そうした方々も同じ住民として参加し、ともに平和の尊さを考えることができる工夫というのも必要だと思う。</p>
委員	<p>市の式典では、ステージにあがる園児、児童の送迎や、写真を撮るために保護者が参加されるが、保護者から遺族までの年代に開きがあり、役職などでない限り、その年代の方は一般参加されることは少な</p>

<p>委員</p>	<p>いように思う。</p> <p>例えば、昔の地域の暮らしの様子をお年寄りから話を聞いて絵屏風を作るのに補助金が出ており、上丹生では、お年寄りの話をもとにB-29を絵屏風に描いたり、絵屏風をカルタにするという取組をされた。お年寄りが実体験の話をする事で、間接的に子どもたちが目で見て耳で聞くという「地元学習」を実践されている。地元の出来事の話であれば、平和祈念式典に関心を持ってもらえると思う。</p> <p>ところが、地理的、時間的に間が開くと、なかなかそこに思いが至らない。子どもへの教育は必要だが、世代間を埋める取組として、長生きしているお年寄りから今のうちに話を聞くなどして、その地域の出来事を落とし込むことも必要なのではないか。</p> <p>また、高齢者サロンで、お年寄りが日章旗の寄せ書きを持ち寄って「誰々さんの名前があるよね。」などの話をされることもあり、こういったことを含めて地元で広げていくことで、幅広い世代に平和祈念式典に関心を持ってもらえると思う。</p> <p>一般市民に広げていくために県遺族会として考えているのは、現在実行委員会に、市、遺族会、社協が参画しているが、区長会、子ども会といった組織に入ってもらい、そこから一般市民に広げてはどうかと県に申し上げている。</p> <p>かつては市の「平和祈念式典」は「戦没者追悼式典」であったが、戦没者だけでは一般市民は来ていただけないので、「平和祈念式典」とした。そういった発想がよかったと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>私は米原市民ではないが、市の平和祈念式典の次第を見て、よその地域から来た者として「参加していいのだろうか」と思ってしまう。市長、県議会議員、市議会議長のお話があって、実際に親族を亡くされた方が追悼、献花をされる。エントランスには戦没者の御遺影が飾ってあり、パネル展示では現地に行かれた遺骨収集の開催風景がある。その中で、米原市で戦争の時に一体何があったのか、米原市という地域でどういうことが起きたのか、それによって地域の人達がどういう想いを抱いたのかなどを伝えていく努力がある意味欠落しているように思う。</p> <p>守山市では、市民と行政が共同で「平和のよろこび展」という平和</p>

	<p>への願いを込めた展示を行っており、滋賀県平和祈念館も毎年協力させていただいている。この展示は、戦地に行かれた方々の体験談や、守山駅周辺を襲った空襲、空襲で被害を受けた人の体験談などを紹介し、多くの市民に「戦争が地域に何をもたらしたのか」や「戦争を体験した人々の悲しみや平和への願い」を「忘れてはいけないふるさと守山の歴史」として伝えていく市民活動となっている。</p> <p>米原市の式典も、御遺族を中心とした慰霊式典という殻を破って、戦争によって人々が何を体験し、どういう想いを抱いたのかを、より多くの市民に知ってもらう場とすることも必要だと思う。戦争を知らない世代の市民に当時のことを知ってもらう努力がなければ、市民や地域を巻き込んでいけないと思う。</p>
座長	<p>内容面の工夫、組織の構成の在り方の御提案など、今後の会議の中で検討すべき事項が多くあることを認識できた。</p>
座長	<p>議題「市全体の平和の象徴として、非核・平和を祈念するモニュメントの建立に関することについて」を事務局から説明されたい。</p>
事務局	<p>(事務局から、「市全体の平和の象徴として、非核・平和を祈念するモニュメントの建立に関することについて」を説明。)</p>
座長	<p>具体的なモニュメントのデザイン、そもそもモニュメントをつくるかということもあるが、例えばデザインなんかはこんなものかいいのではないかなど、御自由に意見、質問いただければと思うがいかがか。</p>
委員	<p>遺族会としては、どうしてもモニュメントをつくって欲しいという要望がある。なぜかという、「それぞれの12基ある忠魂碑の代わりになるもの」という遺族会の強い思いがあるからである。年に1回くらい寄せていただき御霊にこうべを垂れていくという機会づくりのモニュメントになることを、遺族の会員として非常に強い要望がある。</p> <p>どんなものかいいのかは遺族だけの問題でなく、米原市民が平和を願うモニュメントでなければならないが、モニュメントの中に今申し上げた遺族の思いが実現できるように配慮していただきたい。現在の忠魂碑については単なる祈念碑としてどうするかは検討していかなければ</p>

	<p>ればならないが、一応忠魂碑としての役目は終わって維持管理しなくてもいいように、という思いが非常に強くあります。そういったことをどこまでいかせていただけるのか、これは、遺族の考えだけでは無理ですので、市民の皆様方に理解していただけるように考えていただきたい。</p>
座長	<p>モニュメントを「どこに」「どのようなものを」「予算はいくらで」といったことについて、今後の会議で事務局から説明されたい。ほかに意見はないか。</p>
委員	<p>子どもたちとかが集まることができる公園みたいな形がいいと思うが、散歩したりただのお飾りの祈念碑だけでは、同じようなことにならないかなと思うので、何か変わったことというか、みんなが集まることができるようなそういった形ができればよいと思う。</p>
委員	<p>先程も申しあげたとおり、歴史性ということを担保する必要があると思う。ただ単に解体する、人知れず朽ち果てていくというものではなく、例えば教育委員会などを巻き込んで、歴史遺産として再度活用できるような形、例えば測量調査とか、つくられた経緯についてもこのタイミングで調査、公開する必要がある。新しいモニュメントは歴史的なことを考えてつくらないと、30年後ぐらいに、「あのつくった何か奇抜なモニュメントが倒れかかっているから、これ壊していいか」と市民会議を開かざるを得ないなんて話が生じるかもしれない。戦争中のオリジナルのものを壊して、新しいものをつくるというのは、それぐらいの覚悟をもってしないと、自分たちの負の歴史かもしれないが、歴史を抹消するということが公がやるということを持ってしまう形になるので、いろんな批判を受けることにもなる。それに対して、きちんと担保できる取組としなければ事業が進まなくなる可能性もあるので、十分考えていただきたい。</p>
座長	<p>モニュメントをつくるかどうか、つくったから忠魂碑を全て解体するということが決まっているわけではない。私としてもなるべくそのものとして維持できるものであれば、維持していくことについて大変重要なことと受け止めた。</p>

<p>委員</p>	<p>12基の忠魂碑は、お祀りはできていないにしても、「見える化」のシンボルとしてそこにあるということは貴重なことである。危なくて無くすにしても、上の柱だけは安全な形で残しておくべきだと思う。山の上にあれば下に下ろす形でもいいので、「見える化」としてひとつ置いておくべきだろうと思う。</p> <p>今度新しくつくるモニュメントについては、これだけ広い市内で一か所しかつからないので、行政などが活用の展開を、子どもたちを含めて考えた上で形、広さ、今後どのように活用するかという道筋が見えていないと、単にモニュメントをつくただけだと後世に言われてしまうので、「こういうことでつくって、こう使うつもりでしたんだよ」ということを示していくべきである。そこに対して税金が投入されるんだというふうに思うので、その議論は市民会議だけではできないので、時間のなかでもしっかりと詰めた上で、市民の皆さんに、あるいは議会に説明をしていく中で、建設していただきたいと思う。</p> <p>私は、平和祈念式典をきっかけに、おじ2人の遺影を小さいものにつくっていただいていたので改めて仏壇の中に入れた。写真を見えるものとして置いておくということは、次の子どもたちから「これ誰？」というその一言を聞き出すためにもいいと思って、あえて仏壇の中に入れた。そのような意味が今の忠魂碑なり、モニュメントにはあるのだらうと思うので、どう生かしていくのかという議論はしっかりとやっていくべきだと思う。</p>
<p>座長</p>	<p>回数も限られている中でどのように進めていくか、非常に重要な御指摘があったかと思う。その点に関わって最後議事の4番目「今後の市民会議の進め方について」、先程スケジュールにも少しふれていただいたが、事務局からその他確認事項とあわせて説明されたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>今後のスケジュールについて、忠魂碑のこと、平和祈念式典の在り方やモニュメントにつきましても今後市民会議の中で更に協議を深めていただければと思います。第2回の市民会議につきましましては令和4年1月を予定しております。第3回市民会議はその2か月後、令和4年3月に予定しております、第4回が令和4年5月ということで、ここで大体おおまかにまとめができればと思っております。そして最</p>

座長	<p>後、第5回が令和4年7月にまとめたものを答申書という形で提出したいと考えております。</p> <p>これで本日の議事を終了する。</p>
----	---

会議の公開・非公開の別	<p>■公 開 <u>傍聴者： 0 人</u></p> <p><input type="checkbox"/>一部公開</p> <p><input type="checkbox"/>非 公 開</p> <p>一部公開または非公開とした理由 ()</p>
会議録の開示・非開示の別	<p>■開 示</p> <p><input type="checkbox"/>一部開示（根拠法令等：)</p> <p><input type="checkbox"/>非 開 示（根拠法令等：)</p>
全部記録の有無	<p>会議の全部記録 <input type="checkbox"/>有 ■無</p> <p>録音テープ記録 <input type="checkbox"/>有 ■無</p>
担 当 課	くらし支援部社会福祉課